



5. 情報に対する感性

情報と向き合うため、
情報技術の特性を理解するとともに
情報を活用するのは自己であることを認識すること

- A 情報受信に対する感性
- B 情報発信に関する感性
- C 自己に対する感性

A 情報受信に対する感性

- A1. 情報の必要性の認識
- A2. 批判的思考
- A3. 情報発信者の意志の推定
- A4. 情報源へのアクセス
- A5. 情報の活用
- A6. 情報の量に関する感性

A1. 情報の必要性の認識

- 情報が必要なことを認識できる
 - 情報を得ればより早く目的を達成できることを理解できる
- 情報が必要な時を認識できる
 - 情報を得ることができれば良い判断ができることを認識できる
- 判断には情報が必用であることを認識できる
 - 情報を得ればよい判断ができることを認識できる
 - 情報は判断材料であることを認識できる
 - 決断できないのは情報や知識が不足していることを認識できる

A2. 批判的思考

- 批判的かつ適切に情報を評価することができる
 - 受信した情報を批判的に見ることができる
 - 信用する前に疑うことができる
 - 情報を他の情報と比較できる
 - 受信した情報の背景を考えることができる
- 必要な情報について質問できる
 - 理解できる点とできない点を区別できる
 - 理解できない内容について質問できる
 - 情報を整理し内容の矛盾点を指摘できる
- 問題点を認識した上で情報を活用できる

A3. 情報発信者の意志の推定

- 情報は情報発信者の意志で創造されている
 - 情報が創造された背景を推定する
 - 情報発信者にとっての情報の意義を推定する
 - 情報発信の目的を推定する
 - 情報発信者の意志に基づいて目的が作られる
 - 自己の情報利用の目的との違いを推定できる
 - 作成された時代的背景を推定できる
-

A4. 情報源へのアクセス

- 有力な情報源を推定できる
 - 情報源を認識し評価できる
 - 図書、雑誌記事、新聞記事情報などの特徴を理解できる
 - 情報を探す方法を考え出せる
 - アクセス方法を選択できる
 - 必要な情報に効果的かつ効率的にアクセスできる
 - 情報技術を利用してアクセスできる
 - 情報検索システムの利用
-

-
- 情報収集のために、目的・目標を明確にすることができる
 - 書誌事項を認識・利用できる
 - 情報の付帯情報
 - 適切なキーワードを考え出すことができる
 - データベースの構造の理解
 - 情報の原文を入手できる
 - 図書館の利用
 - 必要な情報の範囲を決めることができる
-

A5. 情報の活用

- 情報を目的の達成・問題解決に利用できる
 - 問題点の認識/目的・目標の確認ができる
 - 情報を整理することができる
 - 創造的な情報を正しく評価できる
 - 必要な情報を取捨選択できる
 - 複数の情報の関係を目的に合わせて整理できる
 - 情報を再構成できる
 - 新しい情報を既存の知識に組み込み新しい解釈ができる
-

-
- 判断(意思決定)
 - 情報は理性的な判断(意思決定)の基礎になることを認識できる
 - 判断は行動を起こすために必要なことを認識できる
 - 過去の経験を計画の立案や判断に利用できる

A6. 情報の量に対する感性

- 処理できる情報を選択的に扱うことができる
 - 処理能力を超える情報量を把握できる
- 必要な情報を認識できる
 - 自分の知識になる情報
 - 判断の材料になる情報
- 不要な情報を認識できる
 - 多量の使い切れない情報
 - 判断に使えない情報

-
- 情報量の多さが、逆に情報不足を促進することになる場合があることを認識できる
 - 情報量が多いため、理解できる情報のみを処理し、理解できない情報とは距離をおく場合が多くなる
 - 理解できる情報か否かではなく、必要な情報か否かが重要

B. 情報発信に関する感性

- B1 文章に対する感性
- B2 目標の確認
- B3 情報収集の有効な手段
- B4 情報発信によるコミュニケーション
- B5 プレゼンテーション

B1 文章に対する感性

- 情報の主体はテキストであることを認識できる
 - 情報は言語・文章で表現される
 - 図表はテキストの内容を補足する
 - 音声・イメージ・動画も情報であるが、内容を伝える情報の主体でない
- 論理的な文章を作成できる
 - 正確な文章は情報を伝えるために必要
 - 情報技術と並び情報社会における重要な能力
- 日本の国語教育
 - 文学的文章で論理的文章は教育の対象外

B2 目標の確認

- 情報発信の目標を明確にできる
 - 行動の結果が情報発信となる
 - 目的実現のため目標を明確にする必用
 - 目的
 - 自分が達成したいこと
 - ~したい
 - 目標
 - 目的を達成するために具体的な到達点
 - 数値目標
-

B3 情報収集の有効な手段

- 情報発信が有効な情報収集を可能にする
 - 同じ目的・目標を持つ人を見つけることができる
 - 同じ価値観を持つ人を見つけることができる
 - 自己の知識外の情報を得ることができる
 - 別の分野・価値観からの意見や評価を得る
 - 情報を発信しない方が良い場合
 - 相手の目的が逆の場合
 - 相手の意志を推定・確認することが必要
 - 自己の情報に経済的価値のある場合
 - 権利化 / ノウハウとして保持
-

B4 情報発信によるコミュニケーション

- コミュニケーション
 - 情報の発信と受信が繰り返される
 - メッセージの交換
 - 双方にメッセージ・情報から意味が創造される
 - 情報受信でコミュニケーションを始める場合
 - 主体は相手にあることが認識できる
 - 情報発信でコミュニケーションを始める場合
 - 主体は自分にあることが認識できる
-

B5 プレゼンテーション

- プレゼンテーションは情報の効果的な伝達手段である
- コミュニケーションの手段ではない
 - コミュニケーションを始める前に有効
 - 多くの人に情報を伝えるときに有効
- パワーポイント
 - 自己の情報を一方的に効果的に伝える手段
 - 15分、1ページ1分
 - 情報の共有に効果がある

C 自己に対する感性

- 外部から来る情報を受け止め発信するためには、自己を知ることが重要
- C1. 自己の価値観を知る
- C2. 自己の知識レベルを知る
- C3. 自己の意志を知る
- C4. アイデンティティを知る

C1. 自己の価値観を知る

- 行動を決定づける、重要な要素のひとつ
 - 何に価値を認めるかという個人の評価基準
 - 自己の価値観をとおして情報を見れば情報を自己の観点で評価でき、無条件に受け入れることはなくなる
- 価値観の判断基準
 - 興味を持てるもの
 - 同意できるもの
 - 受け入れられないもの
 - 存在自体を認めることは重要
 - 情報として受信できない場合が多い

価値観 Eduard Spranger 1882～1963

「生の諸形式」(1914)

- 6種類の精神作用にもとづいて個別に価値の追求が行われ価値が認められた作用にもとずき個性が形成される。
- 人間の精神作用 究極的な類型
 - 認識作用 理論的価値強調型
 - 審美的作用 審美的価値強調型
 - 経済的作用 経済的価値強調型
 - 宗教的作用 宗教的価値強調型
 - 支配作用 権力的価値強調型
 - 共感作用 社会的価値強調型
- 自己の価値観を考える手がかりとして有効

-
- 1つに集約すると単なる性格判断
 - 複数の要素が関与する
 - 現時点における自分の価値観を常に意識することが情報行動に重要
 - より具体的な価値観を言葉で表現すると自己の価値観が明確になる
 - 知識が価値観の形成に重要な働きをするので価値観も変化する
-

C2. 自己の知識レベルを知る

- 情報を受け取るには知識が必要
 - 知識がないと情報の持つ意味を理解できない
 - 情報の評価にも知識が必要である
 - 知識レベルにより受け取ることのできる情報の範囲が異なることを理解できる
 - 自己の知識レベルを知る
 - 新たな情報を得ることにより知識が増え、さらに情報を活用できる
 - 自己の意志を確認するためにも知識が必要
-

情報収集と基礎知識

- 情報収集のためには前提となる基礎知識が必要であることを理解できる
 - 基礎知識は本や雑誌から得られる
 - 的確なキーワードは基礎知識がないと使えない
 - 基礎知識がないと収集した情報が役にたつか判断できない
 - 自己の知識レベルが高ければ高いほど情報を有効に使える

C3. 自己の意志を知る

- 情報は判断のため必要
 - 情報は特定の目的に対する判断材料
 - 特定の目的とは行為の目的である
 - 行為の発現根拠は意志
 - 自己の意志を確認することが、目的を達成するための情報利用に大きく関係する
 - 自己の意志の存在を意識できることが重要
-

-
- 意志に反映する自己の価値観の認識も重要
 - 自分は何に価値を見出しているのかを知る
 - 自分は何をしたいのかを知る
 - 自分は何に興味があるのかを知る
 - 自己に対する感性
 - 自己自己の価値観を知る
 - 自己の知識レベルを知る
 - 自己の意志を知る
-

C4. アイデンティティを知る

- 自己を知り、新潟を知り、日本を知ること
- 個人がグローバル社会で他者とコミュニケーションをとり、情報を活用して共同で作業(ビジネスなど)を行うための基盤
- 自分の地域コミュニティを明らかにすること
- 自分の居場所を明らかにすること

問題

- Sprangerの価値観を批判的に考える
 - スポーツ選手の価値観は何に相当するか？
 - 勤勉さはどの価値観に相当するか？
 - 精神作用が6種類に分類できるのは一つの考え方にすぎないのではないか？